「多様な学びを支える心理教育的アセスメント」

日時	平成29年10月4日(水)	受講者	20名
目的	心理教育的アセスメントを生かした児童生徒の指導・支援について研修を行い、指導力の向上を図る。		

講義1 「心理アセスメントの実際」

福島県発達障がい者支援センター

主任心理判定員 宍戸 府子 氏

講義2 「教育的アセスメントを活用した配慮や支援の実際」 特別支援教育センター 端語特別支援教育 内藤 裕美 演習 「アセスメントをもとにしたケース検討」 特別支援教育センター

> 主任指導主事 佐藤 登 指導主事 4名

<講義1>

「アセスメントの実際」

心理アセスメントについて、実際の検査道具などを の概要について学びました。

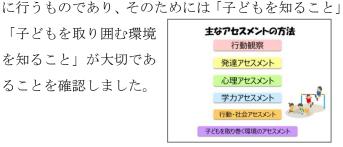
また、具体的な事例を通 して、所見の読み取り方 を学び、所見をもとにし た具体的な支援について 考えました。



<講義2>

「教育的アセスメントを活用した配慮や支援の実際」 教育におけるアセスメントの意義や、それぞれのア 見せていただきながら、検査法の種類や 「新版 K 式発|セスメントを行うポイントなどについて学びました。 達検査」「Vineland-Ⅱ適応行動尺度」などの検査法|また、アセスメントは、「子どもの自己実現のため」

> 「子どもを取り囲む環境 を知ること」が大切であ ることを確認しました。



<演習>

受講者が事前に作成した資料をもとに、対象の児童生徒についての情報を整理し、本人の「強み(得意と すること)」と「弱み(苦手とするところ)」を推測し、今後の配慮について検討しました。アセスメント の6つの視点に応じて情報を整理していくことで、様々な視点で情報収集を行っていく大切さを確認しまし た。また、本人の好きなことや興味・関心、得意なところを「強み」として今後の配慮や支援に生かしてい くことの大切さを、協議を通して確認しました。

受講者の感想

- ○アセスメントの意義をあらためてとらえ直すことができました。(特別支援学校教員)
- ○アセスメントには多数の方法があり、「子どもを取り巻く環境のアセスメント」も大切だと言ってもらえ たことがよかった。心理アセスメントが強調されるのではなく、いろいろな方法が必要だとあらためて認 識できた。(小学校教員)
- ○アセスメントの種類、方法、目的など詳しく知ることができ、よかったです。演習では、たくさんの視点 からアドバイスをいただき、勉強になりました。(特別支援学校教員)
- ○自分自身、どのように対応してよいか悩んでいたが、先生方のアドバイスをいただき、すぐに実践できる ものが数多くあった。(高等学校教員)